

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	大阪府
-----	-----

2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 (府内市町村の識字・日本語学習活動への支援)
--------	---

②目的等

1 目的

今後、在留外国人の増加が見込まれる中、日本語能力が十分でない外国人等が生活に必要な日本語能力を身に付けられるよう、府と市町村と関連団体等が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを行い、日本語学習機会の確保を図る。

2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況】

識字・日本語教室を所管する市町村に対し、府は、識字・日本語学習に関する情報提供や府内の識字・日本語学習行政担当者が一堂に会する「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催等、情報交換の場を設けることで、府と市町村が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援を行っている。

さらに、本事業を活用することで、市町村が行う「地域日本語教育の実施」等への財政的な支援、市町村域を越えた人材育成の取組など、府と市町村と関連団体等のより一層の連携強化を図っている。

【構築を目指す体制】

大阪府における総合的な体制づくり

司令塔機能

これまで府内の識字・日本語施策や事業の推進に中心的な役割を担ってきた「大阪識字・日本語協議会」が、府内の識字・日本語学習支援に係る総合調整会議としての役割を担い、府職員が総括コーディネーターを務める。

各市町村における日本語教育の実施

各市町村が当該地域や在住する外国人の特性等に対応した教育プログラムを策定し、地域日本語教育コーディネーターが地域内の教室への指導・助言を行えるよう、総合的な体制づくりのための取組を財政的に支援する。

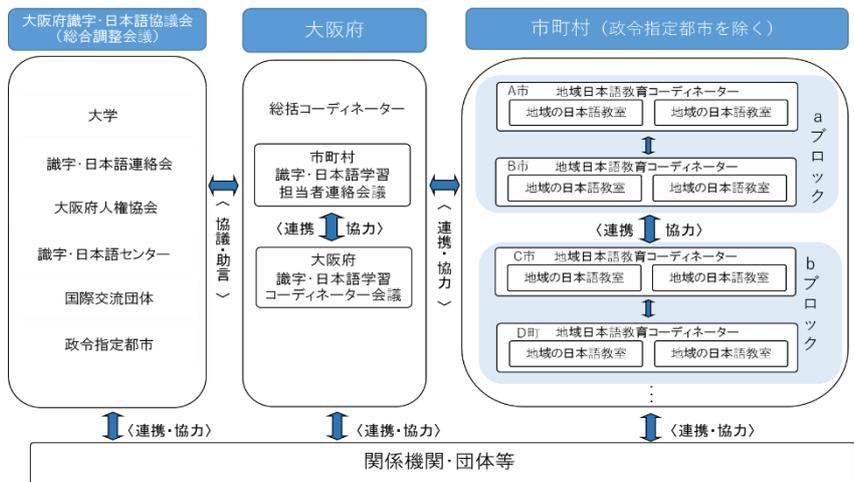
ネットワーク構築

各市町村や各教室が互いの活動について情報共有する場などを設けることにより、識字・日本語学習関係者のネットワークを構築する。

〈市町村補助〉

地域の日本語教育を推進する市町村に対し、人件費、諸謝金、旅費・交通費、消耗品費、雑役務費、委託費、補助金等を補助する。

(国の補助要件どおり)



(2) 令和5年度事業の概要

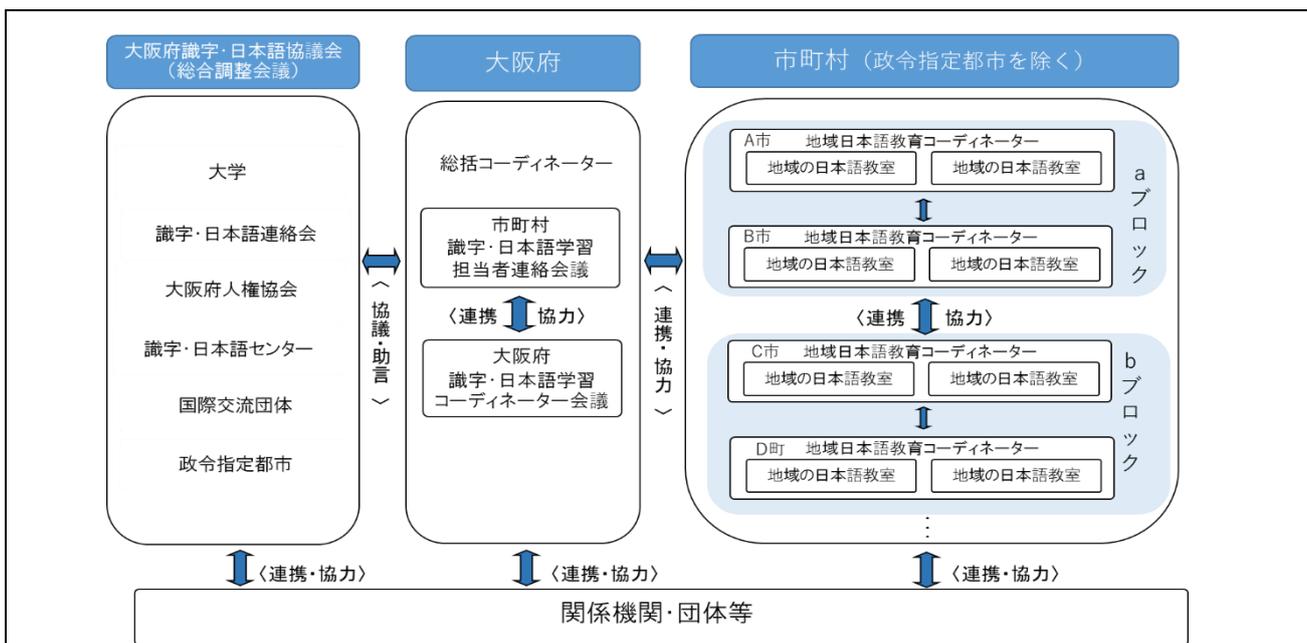
①事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日（12か月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	
<p>前年度については、総括コーディネーターを3名配置し、総合調整会議である「大阪識字・日本語協議会」及び「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」を2回、「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を3回行い、それらの場において府内の識字・日本語学習に係る取組に対する意見の交換と助言を得た。また、令和4年度に本事業に参画し、地域日本語教育を実施する13市における学習者数（実人数）の増加を数値目標としているが、令和3年度における新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出に伴う教室の休講など、数値の単純比較が難しい点はあるものの、茨木市においては、本事業を活用して、学習した日本語を活用する場の提供、文化の理解等をサポートすることを目的とした地域の人との交流をふまえたサロンを新設し、河内長野市においては、本事業を活用して、日本語サロンスタッフ研修公開講座が開催され、新たなスタッフ人材が発掘されるなど、学習者や学習支援者を支援する取組の計画は順調に進捗しており、地域の識字・日本語学習環境の強化が進められている。</p>	
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	
<p>総括コーディネーターにより府内市町村訪問ヒアリングを行った結果、本事業を活用した市からは、オンライン学習環境の強化や学習支援ボランティアへの謝金支払、日本語学習教材の新規購入等、市域内における識字・日本語学習環境が拡充されているという成果の声があがった。</p> <p>一方、本事業を活用していない市町村からは、本事業を活用している市町村の取組事例を紹介してほしいといった声や、近隣の市町村との共同での識字・日本語学習体制の確立への支援といった要望もあった。府と本事業を活用している市町村との間だけでなく、府内全域において好事例の発信や情報交換等をさらに進め、府内の識字・日本語学習体制の広域連携化を進めていくことが課題であることが分かった。</p>	
④令和5年度の目標	
<p>令和5年度については、前年度までの成果と課題を踏まえた上で、府と市町村との情報共有及び連携をさらに進めるように努める。具体的には、本事業を活用した市町村の日本語教育の取組への財政的な支援の実施、「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催を継続するとともに、府内の識字・日本語学習に係る知見とネットワークを有しているコーディネーターから指導・助言を得る会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に市町村の行政担当者や地域日本語教育コーディネーター等が加わり、市町村等の域を越えた広域での情報交換や情報共有の場を設けることにより、府と市町村との連携を深め、府内の識字・日本語学習活動の充実を図る。</p> <p>また、総括コーディネーター等が講師として直接市町村や教室を訪問し、市町村域を越えた教室運営者や学習支援者等を対象とした、識字・日本語学習に係る情報提供や府作成日本語学習教材の普及研修等を行う出前講座の実施や、府と域内の市町村、関連団体等が参加する「大阪府における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告会」を開催し、本事業による成果検証と情報交換の場を新たに設けるなど、市町村域を越えた広域での取組を進め、市町村への情報提供や好事例の発信などの取組をさらに押し進めることで、日本語学習の機会を確保する。</p>	

⑤令和5年度の主な取組内容

- ・「大阪識字・日本語協議会」（総合調整会議）の開催
- ・総括コーディネーターの配置
- ・日本語教育の取組（地域日本語教育の実施・日本語教育人材への研修等）を実施する市町村への支援
- ・地域日本語教育コーディネーターの配置
 - ・地域内の教室を巡回し、情報収集や助言（運営者・学習支援者）等を行う。
 - ・総括コーディネーターと連携し、情報共有を図る。
- ・総括コーディネーターを中心とした府や市町村と関連団体等との連携・協力体制の強化
 - ・「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催（情報交換・共有）
 - ・総括コーディネーターによる訪問ヒアリング（事例収集）
 - ・「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」の開催（有識者からの助言）
 - ・識字・日本語学習に係る出前講座の実施（市町村・関連団体等への情報提供）
 - ・「大阪府における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告会」の開催（本事業における成果検証）

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》					
	交渉状況	氏名	所属	職名	役割
1	承諾済	丸山 敏夫	大阪市内識字・日本語教室 連絡会	代表	指導・助言
2	承諾済	河合 大輔	公益財団法人 箕面市国際交流協会	事業課長	指導・助言
3	承諾済	松藤 昌代	日本語教育・多文化共生推 進協会 kotoba	共同代表	指導・助言
4	承諾済	金 和子	特定非営利活動法人とんだ ばやし国際交流協会	副理事長	指導・助言
5	承諾済	安野 勝美	かいづか国際交流協会	会長	指導・助言
6	承諾済	吉川 友香	公益財団法人 大阪府国際交流財団	企画推進課長補佐	指導・助言

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・ ブロック交流会や見学会等、市町村域を越えた取組を推進するため、ブロック会議を開催し、府と市町村、市町村間の連携・協力体制の構築を図った。
- ・ 「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」と「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を合同で開催し、府内の識字・日本語学習行政担当者と大阪府識字・日本語学習コーディネーターの連携を図った。
- ・ 「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に公益財団法人大阪府国際交流財団に参画いただき、連携・協力を図った。
- ・ 府と域内の市町村、関連団体等が参加する「大阪府における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告会」を開催し、本事業による成果検証と情報交換の場を新たに設けた。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	森 実	大阪教育大学	名誉教授	指導・助言
2	岩槻 知也	京都女子大学	教授	指導・助言
3	奥本 匡伸	識字・日本語連絡会	副代表幹事	指導・助言
4	柴原 浩嗣	一般財団法人 大阪府人権協会	業務執行理事兼 事務局長	指導・助言
5	丸山 敏夫	識字・日本語センタ ー	事務局長	指導・助言
6	菅原 智恵美	識字・日本語センタ ー	事務局次長	指導・助言
7	有田 典代	国際文化交流協会	事務局長	指導・助言
8	安野 勝美	かいつか国際交流 協会	会長	指導・助言
9	池上 成之	大阪府教育庁 市町村教育室 地域教育振興課	課長	行政担当者
10	山本 茂雄	大阪府府民文化部 都市魅力創造局 国際課	課長	行政担当者

11	田邊 雅之	大阪府府民文化部 人権局 人権擁護課	課長	行政担当者
12	比嘉 直子	大阪市教育委員会 事務局 生涯学習部 生涯学習担当	課長	行政担当者
13	脇田 善久	堺市市民人権局 ダイバーシティ推 進部 ダイバーシティ企 画課	課長	行政担当者

②実施結果

実施回数	大阪識字・日本語協議会 2回＋大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 3回
実施スケジュール	7月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 9月 大阪識字・日本語協議会 11月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 1月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 3月 大阪識字・日本語協議会
主な検討項目	識字・日本語学習活動支援に係る取組について ・行政における取組の集約と推進 ・民間における取組の拡大・充実 ・行政と民間の協働体制の強化・充実 等

(取組②-1) 総括コーディネーターの配置

令和5年度も、「大阪識字・日本語協議会」が継続的に司令塔機能を維持できるよう、「大阪識字・日本語協議会」の指導・助言を受ける府職員を総括コーディネーターとした。

(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【 ○ 】

地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【 】

・令和5年度は、府内12市に地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域日本語教育コーディネーターが当該地域や在住する外国人の特性等に対応した教育プログラムの策定や、地域内の教室巡回等を行い、担当する市町村や教室へ指導・助言を行った。

(取組②-3) 調査・基本方針策定コーディネーターの配置

【重点項目】

(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成

(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

・「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催

府内 43 市町村の識字・日本語学習担当行政職員を招集した会議を年 2 回開催した。

【目的】

- ・識字・日本語学習支援の取組が推進されるよう、取組の目的等を説明し、市町村担当者との共通認識を図る。
- ・府内を 8 ブロックに分け、ブロックごとで担当者連絡会議を開催し、各ブロックでの取組が充実されるよう、担当者のネットワーク化を図る。
- ・本事業での取組を共有することにより、新たな参画市町村、参画関連団体の発掘につなげ、より広域での連携（総合的な体制づくり）を推進する。

【主たる内容】

第 1 回：令和 5 年度識字・日本語学習支援の取組説明

専門部会の説明（ネットワーク拡大部会、研修部会、情報収集・発信部会）

ブロック会議（ブロック交流会、教室見学会等について）

第 2 回：識字・日本語学習担当職員相談対応研修

テーマ：日本で暮らす外国人の「各種ビザ取得」

講師：川添 賢史 行政書士川添国際法務事務所代表

地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告

ブロック会議（ブロックにおける取組の進捗状況や課題等についての協議）

専門部会（ネットワーク拡大部会、研修部会、情報収集・発信部会）

・「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」の開催

識字・日本語学習活動に長年取り組み、府内の識字・日本語学習活動に関するネットワークを有している、文化庁の地域日本語教育コーディネーター研修修了者や国際交流協会の役員等で構成されている府の識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーター等との会議を年 3 回開催した。

【目的】

- ・各コーディネーター間の連携・協力を図りながら、識字・日本語学習に係る情報の交換・共有を進めることで、効果的な府内の識字・日本語学習支援活動の在り方を検討する。
- ・当会議に、本事業の地域日本語教育コーディネーターや参画市の行政担当者等が参加する場を設けることにより、各コーディネーターと行政との間で先進事例や情報共有を図り、地域の識字・日本語学習活動の充実に資する。

【主たる内容】

第 1 回：令和 5 年度識字・日本語教室支援のための施策について

第2回：識字・日本語学習担当職員相談対応研修、府内各ブロックにおける取組と課題等について

第3回：令和5年度識字・日本語学習活動支援の取組、令和5年度識字・日本語教室等現況調査について

(取組⑤) 市区町村への意識啓発のための取組

(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修

・「大阪府識字・日本語教室サポート出前講座」の実施

地域の識字・日本語教室において、教室運営者や学習支援者に対し、「大阪府作成日本語学習教材を用いた学習支援の概要」や「教室運営者や学習支援者に必要な人権意識」等について出前形式の講座を実施することにより、教室運営者及び学習支援者に広く学習機会を提供し、人権にかかる知識向上やスキルアップを図ることで、教室の取組や運営をサポートした。

・「識字・日本語学習活動支援 市町村域を超えた取組プラン」の実施

ブロック内の複数の市町村が連携して行う取組プランについて市町村から提案を求め、提案された取組プランのうち実施するプランを大阪府が選定し、提案市町村と大阪府が共催で実施した。

(取組⑦) 地域日本語教育の実施

(取組⑧～⑮) その他の取組

2. 市区町村等の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

大阪府内13市に対して支援を行った。

【府内の間接補助事業者】

合計13団体（豊中市、池田市、箕面市、吹田市、茨木市、枚方市、門真市、交野市、東大阪市、柏原市、和泉市、貝塚市、阪南市）

【支援の対象とする取組等】

- ア 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組
- イ 市町村の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
- ウ 市町村の意識啓発のための取組
- エ 日本語教育人材に対する研修
- オ 地域日本語教育の実施
- カ 地域における日本語教育の在り方についての検討
- キ 地域日本語教育の効果を高めるための取組
- ク 地域日本語教育に付随して行われる取組
- ケ 日本語教育に関する広報活動

- コ ICTを活用した教育・支援
- サ 教材作成
- シ 成果の普及
- ス その他関連する項目

【各間接補助事業者の取組内容等】

市名	取組	内容
豊中市	エ	<p>【講座名】 日本語ボランティア養成講座</p> <p>【講師】 安田乙世（日本語教育支援グループ ことのは）、勝部 麗子（社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会）、金和永（（特活）クロスベース、（特活）IKUNO 多文化ふらっと）、協会職員</p> <p>【実施場所】 とよなか国際交流センター、庄内公民館</p> <p>【実施回数】 4回 4月2日（日）、9月12, 19, 26日（いずれも火曜）</p> <p>【受講者数】 126人</p> <p>【内容】 日本語教室で活動するボランティアを養成するため、現在の「生活者としての外国人」を取り巻く状況、にほんごボランティアに求められることなど、にほんごボランティア養成のための講座。</p> <p>【講座名】 おやこでにほんごボランティア養成講座</p> <p>【講師】 上村有里（とよなかESDネットワーク）、田中一步・近藤孝子（にじいろ i-Ru）、現役ボランティア、外国人参加者、協会職員</p> <p>【実施場所】 とよなか国際交流センター</p> <p>【実施回数】 3回 5月16, 23, 30日（いずれも火曜）</p> <p>【受講者数】 76人</p> <p>【内容】 現在の「生活者としての外国人」を取り巻く状況、おやこでにほんごボランティアに求められることなど、おやこでにほんごボランティア養成のための講座。</p> <p>【講座名】 ボランティアフォローアップ講座</p> <p>【講師】 安田乙世（日本語教育支援グループ ことのは）</p> <p>【実施場所】 とよなか国際交流センター</p> <p>【実施回数】 1回 令和6年2月10日（土）</p> <p>【受講者数】 22人</p> <p>【内容】 現在活動されているボランティアの方を対象に、より学習支援のスキルを向上させる講座。</p>
	オ	<p>【受講者数（実人数） 626人</p> <p>① 月曜日 10時～12時</p> <p>もっともつつかえるにほんご（とよなか国際交流センター）</p>

		<p>78人 43回</p> <p>② 火曜日 10時～12時 しょうない・おやこでにほんご（庄内図書館） 12人 24回</p> <p>③ 火曜日 10時～12時 おかまち・おやこでにほんご（岡町図書館） 20人 35回</p> <p>④ 火曜日 10時～12時 せんり・おやこでにほんご（千里図書館） 22人 35回</p> <p>⑤ 木曜日 10時～11時30分 千里にほんご（千里公民館・千里図書館） 50人 46回</p> <p>⑥ 木曜日 13時30分～15時20分 とよなかにほんご・木ひる（とよなか国際交流センター） 83人 44回</p> <p>⑦ 木曜日 19時～20時 つながれ とよなか オンライン！（オンライン） 57人 42回</p> <p>⑧ 金曜日 10時30分～12時 とよなかにほんご・金あさ（とよなか国際交流センター） 141人 45回</p> <p>⑨ 日曜日 10時～12時 にちようがちゃがちゃだん（とよなか国際交流センター） 95人 50回</p> <p>⑩ 庄内にほんご（庄内公民館） 68人 41回</p> <p>【内容】上記①、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩は、日本語ボランティア養成講座を修了した市民ボランティアによって自立的に運営している、外国人と日本人が日本語で交流を図る場。</p> <p>上記②、③、④は、自身も子育て中のボランティア親子と参加者である外国人親子が日本語で交流して、生活や子育てなどの情報交換や相談等を行う。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】なし</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：一部あり</p>
池田市	ア	<p>「おしゃべり会」</p> <p>【開催時期】6回（4月4日、13日、8月8日、10月5日、2月29日、3月2日）※講師都合により、後半の2回は、事業期間内に開催ができなかった。</p>

	<p>【場所】ダイバーシティセンター 【参加者】日本語カフェボランティア 【内容】日本語ボランティアに対して、コーディネーターが授業の巡回を行い、教え方などのアドバイスを行う。</p> <p>イ 市内のボランティア団体と適宜情報交換を行い、市が実施する養成講座等について案内をする。</p> <p>ウ 広報や、フェイスブック、SNS を用いて、各日本語教室の紹介を行い、交流活動の周知を行う。</p> <p>エ 「日本語カフェボランティア養成講座」の実施 【開催日】第1回 令和5年8月8日 第2回 令和5年8月22日 【場所】ダイバーシティセンター 【対象】新規日本語カフェボランティア希望者及び既存ボランティア 【参加者】 23名 【講師】榎原 智子氏・伊藤 和子氏 【内容】外国人を取り巻く状況や、ボランティアの心構え、標準テキストの活用方法などについて学ぶ。</p> <p>日本語カフェ「保育ボランティア養成講座」の実施 【開催日】令和5年12月20日 【場所】ダイバーシティセンター 【対象】新規保育ボランティア希望者 【参加者】8名 【講師】岡 貴子（保育士）、保健師（市職員） 【内容】様々なルーツや言語、文化を持つ子どもとの遊び、安心、安全な保育について学ぶ。また、ダイバーシティセンターでの保育について注意点や決まり事についても学ぶ。</p> <p>オ 【受講者数（実人数）】1305人 【名称】にほんごカフェ（既設） 【目標】日本に来て間もない外国人や、長年日本に暮らしているが、日本語を学ぶ機会がなかった方が、地域で日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】週3回（1回1.5時間）</p>
--	--

	<p>【学習者数】延べ1067人</p> <p>【実施場所】ダイバーシティセンター</p> <p>【受講者募集方法】市広報誌、センターフェイスブック、情報誌</p> <p>【内容】生活に役立つ会話を中心とした日本語を、ボランティアと共に学びながら交流する。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】30人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】無</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】にほんごきょうしつ 「既設」</p> <p>【目標】外国人が、社会で安心して暮らせる程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】週1回（1回1.5時間）（補助対象期間中のべ24回）</p> <p>【学習者数】81人</p> <p>【実施場所】ダイバーシティセンター</p> <p>【受講者募集方法】市広報誌、センターフェイスブック、情報誌</p> <p>【内容】日常会話が可能な外国人を対象に、より円滑なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】日本語教師 1人</p> <p>【関係機関との連携】無</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】子どもの日本語教室「TBY -To be yourself-外国にルーツを持つ子どもの居場所尾事業」 「既設」</p> <p>【目標】来日間もない、あるいは長く日本で暮らしているが、日本語の習得が不十分な子どもへ、有償ボランティアの協力により日本語学習支援の場所を提供する。</p> <p>【実施回数】週1回（1回1.5時間）</p> <p>【学習者数】157人</p> <p>【実施場所】ダイバーシティセンター</p> <p>【受講者募集方法】市広報誌、センターフェイスブック、情報誌</p> <p>【内容】子どもたちの状況に合わせた日本語学習を行う。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】4人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】無</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
--	---

<p>箕面市</p>	<p>ア</p>	<p>地域日本語教育コーディネーターを1名配置し、外国人市民のニーズに沿った日本語教室が運営できるよう市内全域の日本語教室に対して指導・助言を行った。</p>
	<p>エ</p>	<p>新規日本語学習支援者の養成および日本語学習支援者のスキルアップ向上を図るため、ボランティアセミナーやボランティア研修会を実施した。</p> <p>【多文化ボランティアセミナー】</p> <p>(1) 講演：「ちがいが織りなす‘私たち’のコミュニティ」上映 講師：(公財) 箕面市国際交流協会職員 日程：2023年5月20日(土) 14:00～17:00 場所：多文化交流センター 参加者：34名</p> <p>(2) 「箕面市における地域国際化の状況と課題」 講師：(公財) 箕面市国際交流協会職員 日程：2023年5月27日(土) 14:00～16:00 場所：多文化交流センター 参加者：32名</p> <p>(3) 「多文化な子どもを支える地域を作ろう！大学・学校・地域をつないで」 講師：近藤美佳 パネリスト：赤城龍一、井川柊子 日程：2023年9月16日(土) 13:30～16:00 場所：多文化交流センター 参加者：22名</p> <p>(4) 「東アジア地域における21世紀型コミュニティの構築を目指して～宍粟市などでの取り組みから～」 講師：思沁夫 日程：2023年9月30日(土) 14:00～17:00 場所：多文化交流センター 参加者：24名</p> <p>【ボランティア研修会】</p> <p>(1) 「となりの机のいいところ探し」 講師：田中伶弥、明里賀英子、ドルギオン オトゴンジャルガル 日程：2023年7月16日(日) 14:00～16:00 場所：多文化交流センター 参加者：12名</p> <p>(2) 日本語学習と地域日本語教室について学習者に聞く コーディネーター：田中伶弥、明里賀英子、ドルギオン オトゴンジャルガル 学習者：ファネズ、黒田アリサ</p>

	<p>日程：2024年1月14日（日）14：00～16：00 場所：多文化交流センター 参加者：21名</p> <p>オ 【受講者数（実人数）】95.6人（保育除く各日本語教室平均人数+放課後日本語教室実人数13人） 全17カ所 総実人数96人</p> <p>【名称】日本語読み書き教室「ささゆり」</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会（日本語読み書き）の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】32回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】延601人</p> <p>【実施場所】箕面市立多文化交流センター</p> <p>【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど</p> <p>【内容】市民団体「T.E.S.にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「Basic Kanji Book」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。また、ボランティアによる就学前までの保育を設け、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した（多文化子ども保育全32回実施）。</p> <p>【講師】延160人</p> <p>【関係機関との連携】市民団体「T.E.S.にほんご」への委託 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】日本語会話教室「あかね」</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会（日本語会話）の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】31回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】延590人</p> <p>【実施場所】箕面市立多文化交流センター</p> <p>【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど</p> <p>【内容】市民団体「T.E.S.にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「みんなの日本語」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。また、ボランティアによる就学前までの保育を設け、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した（多文化子ども保育全31回）。</p>
--	--

	<p>【講師】延186人</p> <p>【関係機関との連携】市民団体「T.E.S.にほんご」への委託</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】定住者のための日本語読み書き教室「萱野にほんご」</p> <p>【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得してもらう。</p> <p>【実施回数】37回（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】延335人</p> <p>【実施場所】箕面市立萱野中央人権文化センター</p> <p>【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど</p> <p>【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。</p> <p>【講師】延317人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】日本語学習支援「ひまわり」</p> <p>【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得できる機会を提供すると同時に、ボランティアとの交流を通じて、地域とのつながりや相互理解を促進する</p> <p>【実施回数】34回（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】延474人</p> <p>【実施場所】箕面市立多文化交流センター</p> <p>【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど</p> <p>【内容】相互理解の促進を図りながら、ボランティアが外国人市民の日本語学習の支援を行った。</p> <p>【講師】延536人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】おやこで日本語「さんさんクラブ」</p> <p>【目標】孤立しやすい子育て中の外国人市民が、「子育て」という共通点を持つボランティアから日本語を学び、地域とのつながりや相互理解を促進する。</p> <p>【実施回数】7回（1回4時間）</p> <p>※新型コロナウイルスの影響により、対面による開催での需要が減少したため、市と国際交流協会が協議し、予定回数を減らし、1回あたりの時間数を増やした。</p> <p>【受講者数】41人</p> <p>【実施場所】箕面市立多文化交流センター</p> <p>【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど</p> <p>【内容】「子育て」という共通点を持つボランティアと外国人市民が子どもと一緒に参</p>
--	--

		<p>加し、日本語でコミュニケーションをとりながら、相互理解を図った。</p> <p>【講師】延17人 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】東にほんご 【目標】地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。 【実施回数】38回（1回1.5時間） 【受講者数】延209人 【実施場所】箕面市立東生涯学習センター 【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【講師】延227人 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】西南にほんご 【目標】地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。 【実施回数】37回（1回1.5時間） 【受講者数】延385人 【実施場所】箕面市立西南生涯学習センター 【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【講師】延291人 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】放課後等の時間を利用した日本語指導 【目標】箕面市内の小・中学校に在籍する日本語理解が困難な児童・生徒に、日本での生活に必要な日本語を身に付けてもらう。 【実施回数】160回（1回1～2時間程度） 【受講者数】延2,080人 【実施場所】市内小・中学校（10校） 【受講者募集方法】外国にルーツをもつ児童・生徒及び保護者への声かけ 【内容】ボランティアが、それぞれの日本語の習得度に基づき日本語指導を行う。 【講師】9人 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
吹田市	ア	<p>本事業の教室に係る計画、広報活動、受講者募集・在籍管理、予算管理業務等に加えて、他市の日本語教室の視察や意見交換、情報収集等を行い、今後の日本語教室の展</p>

	<p>開に関する検討を行った。</p> <p>オ</p> <p>【受講者数（実人数）】 126人</p> <p>【名称】 日本語1（入門クラス）</p> <p>【目標】 日本で安心して生活するために必要な日本語や日本の習慣を習得する。市民や学習者同士の交流、相互理解の促進を図る。</p> <p>【実施回数】 73回（週2回、1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 43人（43人×1か所）</p> <p>【実施場所】 千里ニュータウンプラザ6階（公財）吹田市国際交流協会 教室</p> <p>【受講者募集方法】 市報すいた、（公財）吹田市国際交流協会ホームページ、同協会フェイスブック、同協会チラシ、同協会外国人向けメールマガジンほか</p> <p>【内容】 初めて日本語を学ぶ人を対象にした日本語教師によるクラスレッスン。「できる日本語初級」のテキストを使用し、半年クラスで、同じ内容の授業を前期（41回）と後期（32回）に分けて73回実施。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 2人（うち、日本語教師 2人）</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】 日本語2（初級クラス）</p> <p>【目標】 日本で安心して生活するために必要な日本語や日本の習慣を習得する。市民や学習者同士の交流を通して相互理解の促進を図る。</p> <p>【実施回数】 73回（週2回、1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 45人（45人×1か所）</p> <p>【実施場所】 千里ニュータウンプラザ6階（公財）吹田市国際交流協会 教室</p> <p>【受講者募集方法】 市報すいた、（公財）吹田市国際交流協会ホームページ、同協会フェイスブック、同協会チラシ、同協会外国人向けメールマガジンほか</p> <p>【内容】 簡単な会話ができる人を対象にした日本語教師によるクラスレッスン。「できる日本語初中級」のテキストを使用し、半年クラスで、同じ内容の授業を前期（41回）と後期（32回）に分けて73回実施。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 2人（うち、日本語教師 2人）</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】 日本語教室（中級）</p> <p>【目標】 初級レベルの学習を修了した学習者が、より実用的な日本語を習得する。</p> <p>【実施回数】 36回（週1回、1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 19人（19人×1か所）</p>
--	---

	<p>ク</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【受講者募集方法】 市報すいた、市ホームページ、案内チラシ、委託事業者ホームページ・フェイスブック・外国人向けメールマガジンほか</p> <p>【内容】 初級レベルの学習を修了した人を対象とした日本語教師によるクラス。「まるごと にほんのことばと文化 中級2」を使用し、オンラインにて実施。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 1人（うち、日本語教師 1人）</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】 サマーコース</p> <p>【目標】 日本語1・2の学習者をフォローするとともに、日本語の習得度が高くなく、日本語1・2の前期クラスでの学習が難しい新規の学習者に対し、秋以降の後期クラスにおいて、スムーズに学習を始められるよう夏季期間に実施する。</p> <p>【対象】 日本語の習得度が入門・初級レベルの人</p> <p>【実施場所】 千里ニュータウンプラザ6階 （公財）吹田市国際交流協会 教室</p> <p>【実施回数】 4回（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 19人（19人×1か所）</p> <p>【内容】 日本語1・2のクラスが休講となる夏休みを利用して短期のクラスのかいわコースを2コース実施。かいわコースでは、日本語学習サイト『つながるひろがるにほんごでの暮らし』（文化庁）を使い、日常生活で役に立つ会話を練習する。</p> <p>【開始した月】 8月</p> <p>【講師】 2人（うち、日本語教師 2人）</p> <p>【名称】 日本語教室発表会</p> <p>学習成果の発表や地域住民との交流を図る機会として、日本語教室の学習者が日本語でスピーチを行う成果発表会を実施した。開催の概要については下記の通り。</p> <p>【開催時期】 令和5年12月10日 10:00～12:30（2時間半）</p> <p>【会場】 オンライン</p> <p>千里ニュータウンプラザ6階 （公財）吹田市国際交流協会 教室 千里ニュータウンプラザ8階 千里市民センター 多目的ルーム1・2</p> <p>【対象】 日本語教室で日本語学習をしている人</p> <p>【発表者】 11人</p> <p>【観覧者】 会場：32人、配信視聴者：72人</p> <p>【内容】 10:00 開会あいさつ・本会の説明 10:05 スピーチ（11人） 12:30 閉会</p>
--	--

		<p>発表会の様子を Youtube でライブ配信。 配信後も視聴できるよう 10 日程度アーカイブ動画を公開。</p>
茨木市	エ	<p>日本語指導者研修</p> <p>【開催時期】 令和 6 年 2 月 9 日（金）</p> <p>【会場】 茨木市上中条青少年センター</p> <p>【対象】 現在、日本語の指導者活躍している人、日本語指導に興味を持っている人</p> <p>【参加者】 約 30 名</p> <p>【講師】 追手門学院大学文学部 藪崎淳子准教授</p> <p>【内容】 「やさしい日本語」で社会貢献</p> <p>【名称】 日本語指導者研修</p> <p>【目標】 現在日本語を指導している者のスキルアップを図るとともに、新規の指導者を獲得する。</p> <p>【実施回数】 1 回（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 30 人</p> <p>【実施場所】 茨木市立上中条青少年センター</p> <p>【受講者募集方法】 市の広報誌および各教室のちらしの配布</p> <p>【内容】 追手門学院大学の藪崎准教授を講師に招き、日本語指導についての概略と日本在住の外国人と接する上での日本語の話し方・使い方に関する講義の上、ワークショップ形式で「やさしい日本語」化の実践をおこなった。</p> <p>【開始した月】 2 月</p>
	オ	<p>【受講者数（実人数）】 83 人</p> <p>【受講者数（実人数）】</p> <p>【名称】 日本語教室 【既設】</p> <p>【目標】 市内在住の外国人を対象に日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】 30 回（1 回 1.5 時間）</p> <p>【受講者数】 4 か所 83 人（のべ 1371 人）</p> <p>【実施場所】 茨木市立中央公民館、沢良宜いのち愛ゆめセンター、総持寺いのち愛ゆめセンター、豊川いのち愛ゆめセンター</p> <p>【受講者募集方法】 市の広報誌やちらしで募集</p> <p>【内容】 市内在住の外国人が生活する上で必要な日本語習得を目的として、指導者とマンツーマン方式で指導を行った。指導は地域住民から募った学習支援者が行う</p> <p>【開始した月】 4 月</p>

	オ	<p>【対象】「よみかき」教室スタッフ</p> <p>【参加者】32人</p> <p>【講師】摂南大学 国際学部 教授 門脇 薫</p> <p>【内容】初中級学習者を対象にした『書くこと』の指導について</p> <p>【受講者数（実人数）】163人</p> <p>【名称】枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」 「既設」</p> <p>【目標】日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象として、枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」を市内6か所で開設している。日本語の学習を通じて、自身の暮らしを豊かにすることや、やりたいことの実現を通じて、その地域に住むすべての人が、豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指す。</p> <p>【実施回数】6教室で延べ468回（1回2時間）（1月末時点）</p> <p>【受講者数】延べ1,878人（実人数は163人）（6か所合計）（1月末時点）</p> <p>【実施場所】市立生涯学習市民センター（6か所）</p> <p>【受講者募集方法】市の広報誌やSNS等で募集した。</p> <p>【内容】日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象に、日本語学習の場を提供した。</p> <p>【スタッフ】72人（うち、日本語教師 不明）</p> <p>※経歴不問のため把握していない。養成講座修了の新規スタッフを含む。</p> <p>【関係機関との連携】なし</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、生活 Can do 等の活用の有無：無</p>
門真市	ア イ ウ エ	<p>地域日本語教育コーディネーターを各教室に配置し日本語教育の実施、日本語教育人材の育成を実施するための調整を担当した。</p> <p>具体的には、開催場所の確保、受講者の募集、講座等の運営補助、評価・改善にかかる活動を行った。</p> <p>関係団体（日本語教育・多文化共生推進協会 kotoba）と地域日本語教育コーディネーターを招集した会議を、年3回以上開催し、日本語教育に関する課題共有を行った。</p> <p>・チラシの作成や市民課の窓口にてチラシの配布などを行った。</p> <p>・HP や広報紙などによる周知を行った。</p> <p>・「地域日本語教育コーディネーター研修」の実施</p> <p>【講座名】日本語教室支援者養成講座</p> <p>【講師】日本語教育・多文化共生推進協会 kotoba 他</p> <p>【実施場所】門真市立門真市民プラザもしくは門真市立公民館</p>

	<p>オ</p> <p>【実施回数】 のべ3回 【受講者数】 のべ41人 【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生理解を深める ・地域の識字・日本語教室の役割と識字・日本語学習支援者とは ・実教室の見学および実習 等 <p>【受講者数（実人数）】 69人 【名称】 生活に役立つ入門日本語教室 「新設」 【目標】 来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 54回（1回1.5時間） 【受講者数】 69人（35人+34人）（2か所） 【実施場所】 門真市立公民館、門真市立門真市民プラザ 【受講者募集方法】 市の広報誌や市公式ホームページで募集した。 【内容】 標準的なカリキュラム案等を活用し、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室（全54回）を開催した。指導は全体コーディネーター、運営コーディネーターなど日本語指導経験者、補助は地域住民から募った学習支援者が行った。 【開始した月】 5月 【講師】 38人（13人+25人）（うち、日本語教師 2人） 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p> <p>【名称】 テーマ型日本語教室 「既設」 【目標】 地域で生活する外国人住民に対して、学んでおくべき生活知識とそれに関連した日本語能力の獲得を支援するとともに、地域住民との交流を図る。 【実施回数】 2回（1回1.5時間） 【受講者数】 22人（8人+14人） 【実施場所】 門真市立公民館、門真市立門真市民プラザ 【受講者募集方法】 市の広報誌やHPで募集 【内容】 外国人に関心の高いテーマを設定した日本語教室を実施する。指導は日本語教師、補助は地域住民から募った日本語学習支援者が行った。 具体的な指導内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災のための日本語教室（1時間） 現地の消防署等と連携し、防災に役立つ日本語を体験を通じて学ぶ ○職務質問対応のための日本語教室（1時間） ○多文化共生のための日本語教室（各回30分）
--	---

		<p>地域で活動している団体や市民との交流の時間をつくった。</p> <p>【開始した月】 7/15、11/25</p> <p>【講師】 19人（うち、日本語教師 1人）</p> <p>【関係機関との連携】 なし</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
交野市	オ	<p>【受講者数（実人数）】 31人</p> <p>【名称】 学びの場「既設」</p> <p>【目標】 来日したばかりの人や、留学生又は長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった外国人に対して日本語指導を行い、日本語学習の機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】 年間34回 補助対象期間中のべ30回 1回2時間</p> <p>【受講者数】 登録者数15人（15人×1か所）</p> <p>【実施場所】 交野市立青年の家</p> <p>【受講者募集方法】 市のHPで募集</p> <p>【内容】 「みんなの日本語」を教材として、学習者の日本語能力に応じて、学習支援者がマンツーマンによる授業を行う。学習者本人が普段勉強している教材や教室で用意している教材を使用し、個々のレベルに合わせた学習を年間を通じ行う。</p> <p>国籍や世代の差を超えた学習者の交流のため、各国の料理を持ち寄ったり、習字をしたり、といった異文化交流等も行い、学習だけではなく、みんなが楽しんでお互い学べる場としている。学習支援は学校関連や地域のボランティアで担っている。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 登録者数12人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】 北河内の日本語教室担当者と連携をとり、北河内識字・日本語交流会の参加や支援を行う。</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】 日本語プラザ「既設」</p> <p>【目標】 来日したばかりの人や、留学生に対して日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】 年間81回（補助対象期間中72回）週2回（1回1時間30分）</p> <p>【受講者数】 登録者数16人（1人×1か所）</p> <p>【実施場所】 交野会館</p> <p>【受講者募集方法】 HP・ポスター等で募集する</p> <p>【内容】 ボランティアが地域に在住する外国人を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行っている。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 登録者数15人（うち、日本語教師 0人）</p>

		<p>【関係機関との連携】北河内の日本語教室担当者と連携をとり、北河内識字・日本語交流会の参加や支援を行う。</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
東大阪市	ア	よみかき教室との調整を行った。
	イ	地域日本語教育についての国や府の通知等について、情報提供を行った。 市内で実施されている地域日本語教育についての国や府の通知等について、情報提供を行った。
	ウ	<p>・9月8日の国際識字デーに「東大阪国際識字デー・市民のつどい」を開催し、大阪市西成区の「学びの場(鶴見橋よみかきありがとうの会)」学習パートナーの黒川優子さんに、「学ぶことは生きてきた道をことばに変えそして明日につながることをテーマに講演をしていただいた。</p> <p>・東大阪市内永和図書館、市役所1階のホール及び東大阪市内児童文化スポーツセンターにて、学習生の作品を展示し、広く市民に見ていただくことで、識字・日本語問題についての認識を深めていただく識字展を開催した。</p>
	エ	<p>【講座名】ボランティアスキルアップ研修会及び育成のための講習会</p> <p>【実施回数】 2回</p> <p>【受講者数】 のべ59人</p> <p>【内容】ボランティアのスキルアップを目的とした研修会及び育成のための講習会</p>
	オ	<p>【受講者数(実人数)】260人</p> <p>【名称】よみかき教室 「既設」</p> <p>【目標】日本語の読み書きに不自由している人々に対して、学習機会の拡充を図るとともに、日常生活に不自由のない程度の読み書きができることを支援する。</p> <p>【実施回数】78回(1回2時間)</p> <p>【受講者数】20人(あさの教室：6人 ひるの教室：6人 よるの教室：8人)</p> <p>【実施場所】あさの教室：東大阪市若江岩田駅前市民プラザ、ひるの教室：東大阪市内立東体育館、よるの教室：東大阪市内立菱屋西公民館永和分室</p> <p>【受講者募集方法】市政だより及び市ウェブサイト</p> <p>【内容】新聞に掲載されているエッセーや日常生活でよく使われることわざや慣用語、熟語などの教材を用意。学習生のよみかきの程度に合ったひらがなや漢字などの学習支援を行った。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】11人(うち、日本語教師 0人)</p> <p>【関係機関との連携】</p>

	<p>「蛇草識字学級」「荒本識字学級」「布施中学校夜間学級」「意岐部中学校夜間学級」等が加盟する「国際識字年推進東大阪連絡会」と連携し「2023年識字展」を開催。</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】 日本語教室（既設）</p> <p>【目標】 外国人住民に日本語を学習する場を提供し、日本語によるコミュニケーションを通じて支援していくとともに、国際交流に貢献する。</p> <p>【実施回数】 310回（1回 1時間30分）</p> <p>【受講者数】 登録者数260人（上期・下期合計）（8か所）</p> <p>【実施場所】 東大阪市内の施設</p> <p>【受講者募集方法】 市政だより、市ウェブサイト、特定非営利活動法人東大阪日本語教室のウェブサイト</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として、ボランティアと学習者のペア方式により日本語学習を行う。 ・来日したばかりの学習者については、講義形式により初期の日本語学習を行うなど、学習者の適性に応じた授業を展開する。 ・学習者が日本での生活に支障をきたさないように、実生活に適した日本語学習を行う場を提供する。 <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 ボランティア登録者数240人（上期・下期合計）（8か所）</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>特定非営利活動法人東大阪日本語教室と委託契約を締結し、日本語教室を開催した。</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>ク 【名称】 2023年識字展</p> <p>学習生の日ごろの学習の成果である作品の展示を行った。開催の概要については下記の通り。</p> <p>【開催時期】 令和5年11月27日 10:00～17:00 令和5年11月28日 9:00～15:00 令和5年11月29日～11月30日 9:00～17:00 令和5年12月1日 9:00～12:00 令和5年12月2日～3日 9:30～16:30</p> <p>【会場】 東大阪市長永和図書館（11/27～28）、東大阪市府所本庁舎1階ロビー（11/29～12/1）、東大阪市立児童文化スポーツセンター（12/2～3）</p> <p>【対象】 一般</p> <p>【参加者】（出展者）よみかき教室、NPO 東大阪日本語教室、蛇草識字学級、荒本識字</p>
--	---

		<p>学級、意岐部中学校夜間学級、布施中学校夜間学級</p> <p>【内容】識字・日本語学習の成果である学習生の作品の展示会。</p>
柏原市	ア	<p>地域日本語教育コーディネーターと日本語教室講師、事務局職員で会議を年3回実施し日本語教室に対する助言を受けた。</p>
	イ	<p>地域日本語教育コーディネーターと日本語教室講師、事務局職員で会議を年3回実施し、日本語教室に関する課題共有、運営の指針を検討する。</p>
	オ	<p>【受講者数（実人数）】31人</p> <p>【名称】かしわら日本語教室 「既設」</p> <p>【目標】柏原市に居住、通勤もしくは通学している方のうち、日本語を習得し、日常生活や仕事における日本人とのコミュニケーションを円滑に図れるようになりたいと希望するすべての外国人へ、初歩～中級程度の日本語能力獲得を目指した講座を開設し、学習を支援する。</p> <p>【実施回数】41回（1回3時間）</p> <p>【受講者数】31人（31人×1か所）</p> <p>【実施場所】柏原市立国分図書館</p> <p>【受講者募集方法】市HPに案内を掲載</p> <p>【内容】大学教授より紹介された日本語講師が、初級～中級レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開講する。</p> <p>毎週土曜日、午前中に受講者のレベルごとに4つのクラスを設け、学習を行っている。受講希望者は事前に教室に出向いて申込書の提出とレベル分けの簡易なテストを受け、次期受講開始日（4半期ごと）から受講を始める。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】2人（うち、日本語教師 2人）</p> <p>【関係機関との連携】なし</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
和泉市	ア	<p>市職員が地域日本語教育コーディネーターとなり、地域日本語教育の開催場所の確保、受講者の募集、講座等の運営補助、評価・改善にかかる活動を実施した。</p>
	エ	<p>・「日本語ボランティア養成講座」の実施</p> <p>【開催時期】令和5年10月2日～12月11日までの祝日を除く毎週月曜日（全10回うち1回講師都合による休講）</p> <p>【会場】和泉シティプラザ</p> <p>【対象】市内在住又は在勤(学)の18歳以上で、日本語ボランティアとして活動する意思のある方</p> <p>【参加者】21名</p> <p>【講師】澤田 幸子氏、柳瀬 薫氏、高橋 華奈氏（一般財団法人 海外産業人材育成</p>

	<p>協会)</p> <p>【内容】日本語ボランティアとして教室で活動するために必要な知識や理解・心構え</p> <p>・「日本語学習支援者スキルアップ研修」の実施</p> <p>【開催時期】令和5年11月29日(水)</p> <p>【会場】和泉市コミュニティセンター</p> <p>【対象】日本語サロン、識字教室で活動中の日本語学習支援者並びに海外帰国渡日児童生徒等の語学指導員、日本語学習支援に関心のある市民等</p> <p>【参加者】12名</p> <p>【講師】坂本 由美子氏(大阪YWCA日本語教師会)</p> <p>オ</p> <p>【受講者数(実人数)】81人</p> <p>【名称】日本語サロン 「既設」</p> <p>【目標】外国人受講者のニーズに応じた日本語の習得を、日本語ボランティアがサポートすることにより、受講者及びボランティアが双方の文化に触れて相互理解を深め、多文化共生及び国際交流施策の推進に資することを目的とする。</p> <p>【実施回数】週2回(1回90分)</p> <p>【受講者数】52人(2か所)</p> <p>【実施場所】フューチャー和泉、和泉シティプラザ</p> <p>受講者募集方法】市の広報紙やHP、チラシ・ポスターにより募集</p> <p>【内容】市が主催する日本語ボランティア養成講座(全10回)を修了した日本語ボランティアが、地域に在住する外国人(市内在住に限定しない)を対象に、受講者のニーズに応じた日本語指導をマンツーマンで行った。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】56人(うち、日本語教師 1人)</p> <p>【関係機関との連携】なし</p> <p>【連携団体名】和泉市国際交流協会</p> <p>【連携内容】和泉市国際交流協会へ登録する日本語ボランティアが活動する。 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】和泉読み書き教室 「既設」</p> <p>【目標】日本語の文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、識字施策の推進を図ることを目的とする。</p> <p>【実施回数】週1回(1回120分程度)</p> <p>【受講者見込数】5人(5人×1か所)</p> <p>【実施場所】和泉市コミュニティセンター</p>
--	---

	<p>【受講者募集方法】市の広報紙で募集</p> <p>【内容】ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する15歳以上で日本語の文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導をマンツーマンで行った。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】7人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】無</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>【名称】いずみ識字学級 「既設」</p> <p>【目標】文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、日本語の識字施策の推進を図ることを目的とする。</p> <p>【実施回数】週3回（1回120分程度）</p> <p>【受講者数】24人（3か所）</p> <p>【実施場所】和泉市立北部総合福祉会館、旭第二団地集会所、和泉市立人権文化センター</p> <p>【受講者募集方法】市の広報紙で募集</p> <p>【内容】教室の運営をいずみ識字ボランティアの会に委託し、ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する15歳以上で日本語の文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導を行った。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【講師】19人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】いずみ識字ボランティアの会</p> <p>・出欠状況や学習内容の把握、研修会や交流会の企画・運営等の教室運営に係る業務の一部を委託し、協働して教室運営を行った。</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p> <p>ク 【名称】日本語サロン交流会</p> <p>【開催時期】令和5年7月6、7日（七夕交流会）、令和6年1月18、26日（お正月講習会） 各1時間30分</p> <p>【会場】和泉シティプラザ・フューラル和泉</p> <p>【対象】日本語教室の学習者及び学習支援者</p> <p>【参加者数】各30名</p> <p>【内容】日本の伝統文化に触れられる四季折々のイベント開催を通じて、日本語学習支援者及び外国人受講者が互いの文化について理解を深め、日本語を楽しく学びながら交流を行った。</p> <p>【名称】だい34かいよみかきこうりゅうかい2023</p>
--	---

		<p>【開催時期】令和5年11月12日</p> <p>【会場】大阪教育大学天王寺キャンパス</p> <p>【対象】識字・日本語教室の学習者・支援者、夜間中学の生徒・教職員、各地域の識字・日本語連絡会等団体関係者、行政職員等</p> <p>【参加者数】16名（本市から）</p> <p>【内容】13:30～14:00 開会あいさつ、教室紹介、映像によるプレゼン 14:00～14:15 休憩 14:15～16:00 分科会A作文のひろば、分科会Bおしゃべりのひろば、分科会C学習参加者による教室づくり</p> <p>【名称】堺・泉北よみかき交流会</p> <p>【対象】堺・泉北ブロック（堺市・和泉市・泉大津市・高石市・忠岡町）識字・日本語教室の学習者・支援者及び行政職員等</p> <p>【参加者数】19名（本市から）</p> <p>【内容】13:00～13:30 会長挨拶、来賓挨拶、教室紹介 13:40～15:10 分科会A作文、分科会B声に出して読んでみよう 分科会Cおどり 15:20～16:20 各分科会報告、次年度担当市から挨拶、記念撮影</p>
<p>貝塚市 (かいづか国際交流協会)</p>	<p>ア</p> <p>エ</p>	<p>地域日本語教育コーディネーターを3名設置し、泉州地域の日本語教室を巡回し、情報共有しながらよりよい教室運営を図る。また、支援者のスキルアップ講座開催時、近隣の団体に案内等を行い、泉州地域における支援者の能力向上および情報共有の場を創出した。</p> <p>【名称】地域日本語教育コーディネーター業務</p> <p>【目標】泉州地域の日本語教室の状況把握や情報発信、教室環境の整備と改善をする。</p> <p>【実施回数】8回（1時間～2時間/回）</p> <p>【実施場所】泉州地域内の日本語教室</p> <p>【内容】</p> <p>①情報共有・意見交換 各教室への訪問し、近隣自治体の団体と情報共有し、適宜ヒアリング調査を行った。</p> <p>②スキルアップ講座周知・人材育成 日本語学習支援者の能力向上に繋がるようスキルアップ講座の開講に向け、周知のために近隣地域へ開催案内の送付やポスターの配布を行った。</p> <p>【実施日】令和5年8月8日、8月30日、9月7日、9月22日、11月2日、11月25日、12月22日、令和6年1月20日</p> <p>【講座名】日本語ボランティア養成講座</p> <p>【講師】日本語学習指導者数名 【実施場所】貝塚市シルバー人材センター2階会議室</p>

	<p>【実施回数】 17回（1回2時間）予定 【受講者数】 5人</p> <p>【内容】 かいづか国際交流協会の日本語サロンで支援者になるために、やさしい日本語で日本語を教えるコツを学ぶ。講座では動詞や形容詞の他に、表現や発音等幅広く学び、日本語が不自由なことが原因で生活に困難を抱えている外国人に日本語を教え、生活の支援をする。</p> <p>【名称】 スキルアップ講座「外国の方と日本語を学習するためのイラスト講習会」</p> <p>【目標】 文字と共にイラストを活用して伝える力を付ける。</p> <p>【実施回数】 1回（2時間00分）</p> <p>【受講者数】 18人</p> <p>【実施場所】 貝塚市シルバー人材センター2階会議室</p> <p>【受講者募集方法】 広報誌、会報誌、ボランティアグループの呼びかけ、チラシ配布</p> <p>【内容】 日本語学習支援時に、文字だけでなくイラストも併用した方法を学ぶ。</p> <p>【実施した日】 令和5年11月25日（土） 午後1時30分～午後3時30分</p> <p>【講師】 1人（大阪YWCA日本語教師会 児島 弥生）</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>【名称】 スキルアップ講座「日本語に不慣れな隣人にどう寄り添ったら良いのかな？」</p> <p>【目標】 日本語が十分でない人とのコミュニケーションの取り方を学び、今後の日本語指導へ活かしていく。</p> <p>【実施回数】 1回（1時間30分）</p> <p>【受講者数】 16人</p> <p>【実施場所】 中央公民館2階講座室2</p> <p>【受講者募集方法】 広報誌、会報誌、ボランティアグループの呼びかけ、チラシ配布</p> <p>【内容】 日本語が十分でない方への支援時に、学習支援者が心掛けておく点や言葉だけでなく表情やジェスチャーなどを活用し、意思疎通のポイントを学ぶ。</p> <p>【実施した日】 令和6年1月20日（土） 午後1時00分～午後2時30分</p> <p>【講師】 1人（日本語教育・多文化共生推進協会 kotoba 共同代表 松藤昌代）</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p> <p>オ</p> <p>【受講者数（実人数）】 24人</p> <p>【名称】 日本語サロン（既設）</p> <p>【目標】 来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力獲得を支援した。</p>
--	---

		<p>【実施回数】 令和5年4月1日～令和6年1月31日（補助対象期間中218回） 1回：1時間</p> <p>【受講者数】 1回1人 ※マン・ツー・マン形式</p> <p>【実施場所】 かいづか国際交流協会事務所</p> <p>【受講者募集方法】 会報誌、HP、講師の呼びかけ</p> <p>【内容】 地域住民から募ったボランティアが日本語学習指導者となり、日本語学習者（在住外国人）のレベルに応じたカリキュラムを策定し、それぞれの課題に対して日本語指導を行った。指導を行うのは、「日本語ボランティア養成講座」を修了した者で、指導者に対してはスキルアップ講座を実施し、学習者にとってより分かりやすい授業を提供できるようになった。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 約24人/月</p> <p>【関係機関との連携】 無</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
阪南市	ア	<p>・地域日本語教育コーディネーターを2名配置し、日本語教室の実施等に係る市と日本語クラブ等との連絡調整及び情報収集を行った。</p>
	エ	<p>・「阪南市日本語指導者養成講座」の実施</p> <p>日本語教育の教室指導者としての日本語学習指導者の育成を行った。</p> <p>全18回の講座を開催。（オリエンテーション、基礎講座・授業演習・授業体験等17回講義、修了式）</p> <p>修了者は阪南市日本語クラブに加入し、日本語教室での日本語指導の実践を行った。</p> <p>【開催時期】 令和5年9月下旬～令和6年2月上旬</p> <p>【会場】 阪南市立東鳥取公民館</p> <p>【対象】 市内在住、在勤の20歳以上の外国の方に対し、日本語を指導することに関心のある方。</p> <p>【参加者】 合計25名（修了者23名）</p> <p>【講師】 阪南市日本語クラブと外部講師</p>
	オ	<p>【受講者数（実人数）】 63人</p> <p>【名称】 阪南市日本語教室 「既設」</p> <p>【目標】 来日したばかりの人や長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対し、マンツーマン方式で日本語指導を行い、日本語学習機会の提供と言葉の違いから生じる様々な問題を解決し、生活に困らない程度や就労に役立つ日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】 受講者1人週1回（1回1時間30分）</p> <p>【受講者数】 63人</p>

	<p>【実施場所】 阪南市立東鳥取公民館</p> <p>【受講者募集方法】 市の広報誌やHPで募集</p> <p>【内容】 テキスト「みんなの日本語」等を活用し、受講者の個人のレベルに合わせて、阪南市日本語養成講座を終了したもので構成される阪南市日本語クラブ員が週1回を基本にマンツーマンで指導する方式を取る日本語教室を開催する。</p> <p>【開始した月】 4月</p> <p>【講師】 43人（うち、日本語教師 0人）</p> <p>【関係機関との連携】 なし</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
--	--

5 主要な取り組みの実施状況

令和5年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置 ・市町村による日本語教育人材に対する研修や地域日本語教育の実施等の開始 ・大阪府識字・日本語教室サポート出前講座の募集開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村識字・日本語学習担当者連絡会議（第1回）の開催
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第1回）の開催
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第1回）の開催
8月	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪識字・日本語協議会（第1回）の開催 ・市町村識字・日本語学習担当者連絡会議（第2回）の開催 ・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第2回）の開催 ・大阪府における事業取組報告会の開催
10月	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第2回）の開催
12月	
令和6年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第3回）の開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第3回）の開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪識字・日本語協議会（第2回）の開催 ・事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証方法

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法
<p>【令和5年度の目標】（再掲）</p> <p>令和5年度については、前年度までの成果と課題を踏まえた上で、府と市町村との情報共有及び連携をさらに進めるように努める。具体的には、本事業を活用した市町村の日本語教育の取組への財政的な支援</p>

の実施、「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催を継続するとともに、府内の識字・日本語学習に係る知見とネットワークを有しているコーディネーターから指導・助言を得る会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に市町村の行政担当者や地域日本語教育コーディネーター等が加わり、市町村等の域を越えた広域での情報交換や情報共有の場を設けることにより、府と市町村との連携を深め、府内の識字・日本語学習活動の充実を図る。

また、総括コーディネーター等が講師として直接市町村や教室を訪問し、市町村域を越えた教室運営者や学習支援者等を対象とした、識字・日本語学習に係る情報提供や府作成日本語学習教材の普及研修等を行う出前講座の実施や、府と域内の市町村、関連団体等が参加する「大阪府における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告会」を開催し、本事業による成果検証と情報交換の場を新たに設けるなど、市町村域を越えた広域での取組を進め、市町村への情報提供や好事例の発信などの取組をさらに推し進めることで、日本語学習の機会を確保する。

【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

本事業では、以上の目標達成のため、次の取組を主たる取組として実施する。

- 本事業を活用して識字・日本語教室を所管する本事業参画市町村を財政的に支援し、連携することによって日本語学習機会の拡充を図る
- 本事業を活用して参画市町村を財政的に支援すること等により学習支援者の養成機会を創出し、学習支援者の拡充を図る
- 好事例を共有するネットワークを構築し、本事業参画への満足度を上げる（コーディネーターによる情報発信、交流の場の創出）

【指標1：定量評価目標】

本事業に参画し、地域日本語教育を実施する市における学習者数（実人数）

○今年度目標 1,791人*（前年 13市：1,706人）

今年度実績 1,733人

※大阪府の在留外国人数が増加し始めた平成24(2012)年末から令和元(2019)年末にかけて、在留外国人数の増加率は約25.8%であり、平均して1年間で約3.7%ずつ増加している（3頁ア在留外国人数の推移参照）。大阪府の在留外国人数の増加率を上回るよう、学習者数の増加率として前年度の105%を目標値とする。

【指標2：定量評価目標】

本事業に参画し、日本語教育人材養成研修を実施する市（豊中市、池田市、箕面市、茨木市、門真市、和泉市、貝塚市、阪南市）における学習支援者数

○今年度目標値 788人*（前年 8市：751人）

今年度実績 777人

※学習者増加率と同等の増加率が必要なため前年度の105%を目標値とする。

【指標3：定性評価目標】

本事業に参加した市町村の満足度

○今年度目標値 90%以上（前年 91.3%）

今年度実績 92.3%

【検証方法】

○指標1・2については、当課において数値を集計する。

○指標3については、本事業を活用する市町村に対し、年度末にアンケートを実施。

2. その他、令和5年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組①】市町村を支援して実施する日本語教育

（定性評価）本事業で実施される識字・日本語教室の日本語学習者の満足度

今年度目標 95%以上をめざす（前年度実績：95.6%）

今年度実績 97.6%

（検証方法）文化庁アンケート「この教室で勉強して日本語が前より上手になりましたか。」「この教室で勉強する前よりも日本語を使ってスムーズに生活ができるようになりましたか。」「日本語をもっと勉強したいですか。」について肯定的意見の割合を集計して検証

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

府と市町村と関連団体等が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを行い、日本語学習機会の確保を図ることを目的に、学識経験者や国際交流団体と行政関係者等で構成する「大阪識字・日本語協議会」を総合調整会議と位置づけ、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置、「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」及び「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を開催するとともに、市町村の地域日本語教育に係る取組に対する経費補助を含む支援を行ってきた。これらの取組により、府と市町村と関連団体等の連携が昨年度よりさらに進んだと判断している。

また、本事業参画市を財政的に支援し、連携することで学習機会を確保・拡充するとともに、学習支援者の養成機会を創出したことにより、学習者数、学習支援者数ともに目標値には届かなかったものの、前年度数を上回る結果となった。また、それぞれの数値を比較してみると、学習者の伸び率が1.01倍であるのに対し学習支援者の伸び率が1.02倍である。これは本事業を活用し、支援者の養成講座等を行ってきた成果だと考える。しかしながら、大阪府内の識字・日本語教室のほとんどが「一人ひとりに寄り添う学習支援を」という理念のもと、マンツーマンで学習支援を行っていることや、本事業活用市の担当行政職員に対するヒアリングにおいて「学習支援者が不足している。」という声が多くあがっていた現状を鑑みると、学習支援者数の増加率が十分であるとは言い難い。そのため、本事業を活用し、引き続き学習機会の充実を図るとともに、学習支援者へのフォローアップや新規学習支援者向けの養成講座などを拡充するなど、引き続き識字・日本語教育の総合的な体制づくりを推進していきたい。

さらに、本事業に参画した市へのアンケートからは、本事業に対しての満足度が高く、継続して本事業を活用し、識字・日本語学習環境の充実に取り組みたいと考えている市が大半であることが分かった。

令和5年度は本事業について報告会を開催し、広く本事業についても周知した。すでに参画している市の中でも、本事業を活用していない部署が活用を希望するなど、参画者が多様化している。次年度以降も本事業についての周知や情報共有を引き続き充実させるとともに、従来から行っている府と市町村と関係各機関の連携をさらに強化し、日本語学習環境の充実を図っていきたい。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

日本語をほとんど理解することができない学習者が教室に来た場合、学習支援者と学習者の間でコミュニケーションがとりづらく、関係性をうまく築くことができないという声に対応し、学習者との向き合い方など、テーマを指導スキルアップに限らず学習支援者に対する研修を行った。また、どうしても組合せがうまくいかない場合には臨機応変にマッチングを行うなど、各市の教室では様々な工夫を凝らし、学習者、学習支援者ともに気持ちよく過ごせる教室運営が行われている。

行政担当者に対するヒアリングの際に多忙のためなかなか教室訪問ができていないのが課題であると感じていることが分かった。また、教室視察の際には、支援者より行政の方と相談する機会を持ちたいという意見が出ていたため、「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」等の場において、ブロックごとの教室見学実施を促したり、ブロックの他市町村の教室の様子を共有したりする機会を設けた。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
①	大阪識字・日本語協議会



⑤	市町村識字・日本語学習担当者連絡会議
---	--------------------



②

大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議



(2) ①

阪南市日本語発表会



2023年度 阪南市日本語発表会 (2023. 12. 17)